

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：2019年12月16日 報告者：片井 明子

行事種別	研究会	行事番号	190020147	
開催日	2019年12月14日（土）			
時間	開始	15時00分	終了	17時30分
場所	名古屋第一赤十字病院 内ヶ島講堂（所在地 名古屋市中村区道下町3丁目35番地）			
テーマ	「敗血症 DIC の病態と輸血～血漿分画製剤を中心に～」			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	愛知医科大学病院 片井 明子 技師			
講師	<p>講演1「敗血症性 DIC の病態と AT 療法」 一般社団法人 日本血液製剤機構 三橋 和紀様 </p> <p>講演2「分画製剤投与による輸血検査への影響」 愛知医科大学病院 松尾 友仁 技師 </p> <p>特別講演「血管内皮グリコカリックスから考える DIC の病態」 岐阜大学医学部附属病院 高次救命治療センター 准教授 岡田 英志 医師 </p>			
内容	<p>今回は、「DICと血漿分画製剤」について扱いました。まず講演1では日本血液製剤機構 三橋様より DIC の疫学・病型分類について、また敗血症性 DIC に対する AT 療法について説明していただきました。講義2では、分画製剤投与による検査データへの影響について、輸血検査のみでなく感染症や生化学データにおいても影響がみられた実症例と文献からの情報を示しながら説明していただきました。臨床検査技師はさまざまなデータを扱い、それが正しいデータかの判断をする際に、患者様への分画製剤投与歴などを参考にすることが重要であると改めて認識させて頂きました。特別講演では人の体全体にある毛細血管の血管内皮上に存在するグリコカリックスから DIC に関連した最新の知見をご講演頂きました。グリコカリックスについて、貴重な電子顕微鏡撮影写真を紹介していただきました。臓器により異なる姿は非常に興味深く勉強させて頂きました。重要な働きを持っており、障害された場合 DIC の引き金になっていくこと、さらに障害されないように保護する治療、AT 療法についてなどをご講義いただきました。ATⅢ製剤が単に補充というだけでなく体内で重要な役割を持つグリコカリックスの保護になることは、その役割を意識することで、普段の業務の意識も変わってくると思いました。輸血管理部門として知っておくべき DIC のエッセンスを知る機会となり有意義な講演会でした。</p>			
参加者	総数：107名（会員93名、県外会員0名、非会員0名、賛助会員13名、学生0名、その他（医師）1名）			

共催、後援など	共催：一般社団法人 日本血液製剤機構
---------	--------------------

2019.12.16